

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回入間市総合教育会議
開 催 日 時	令和6年7月25日(木) 午後1時00分 開会、午後2時45分 閉会
開 催 場 所	市庁舎B棟4階 大会議室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	市長 杉島理一郎 教育長 中田一平 教育長職務代理者 高山茂 教育委員 橋本清美 教育委員 山本和人 教育委員 齋藤良徳
欠席委員(者)氏名	-
説明者の職氏名	企画部参事兼秘書課長兼未来共創推進室長 石原健二 秘書課未来共創推進室主幹 中村良太郎 学校教育課主幹 小椋亮太 学校教育課主幹 東海林大 学校給食課課長 橋本賢司 学校給食課副主幹 岸田芳郎
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 協議・調整事項 (1)「すぐーる」導入を踏まえた、いじめ問題への対応について 4. 報告事項 (1)学校給食費無償化の現状について 5. その他 6. 閉 会

配 布 資 料	資料1-1:「すぐーる」学校-家庭-地域を繋ぐ連絡システム 資料1-2:すぐーる相談窓口について
	資料2:学校給食費無償化の現状について
関係者職氏名	教育部長 浅見泰志 教育部次長 佐藤政史 教育部参事兼学校教育課長 山崎大志 教育部副参事(教職員指導担当) 岡崎公伸 教育部参事兼教育総務課長 新屋朋徳 教育総務課主幹 椿潤 教育センター所長 井上博子 学校教育課主幹 小椋亮太 学校教育課主幹 東海林大 学校給食課課長 橋本賢司 学校給食課副主幹 岸田芳郎 企画部参事兼秘書課長兼未来共創推進室長 石原健二 秘書課未来共創推進室主幹 中村良太郎
事務局職員職氏名	企画部長 浅見嘉之 企画部次長 村田雄一 企画部参事兼企画課長 横内健 企画部副参事(政策担当) 浅見孝之 企画課副主幹 齊藤祐樹 企画課主任 土屋恵 企画課主事 新井隆弘
会議録作成方法	要点筆記
傍 聴 者 数	1人

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

<協議・調整事項>

(1)「すぐーる」導入を踏まえた、いじめ問題への対応について

「すぐーる」導入を踏まえた、いじめ問題への対応について報告し、それに対して市長、教育長及び各委員が意見交換を行った。

<報告事項>

(1)学校給食費無償化の現状について

学校給食費無償化の現状について報告し、市の考え方について共通認識を図った。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)
企画部長	<進行:企画部長> 1. 開会 2. 挨拶 3. 協議・調整事項 (1)「すぐーる」導入を踏まえた、いじめ問題への対応について 「すぐーる」学校-家庭-地域を繋ぐ連絡システムについて、企画部より説明を願う。
秘書課長	「すぐーる」学校-家庭-地域を繋ぐ連絡システムについて、説明する。 (資料1-1を説明)
企画部長	続いて、すぐーる相談窓口について、教育部より説明を願う。
学校教育課主幹	すぐーる相談窓口について、説明する。 (資料1-2を説明)
企画部長	意見交換を行う。委員のご意見を願います。
市長	すぐーるは、児童・生徒への情報発信ツールとして導入し、情報発信機能とは別に、児童・生徒から直接相談できる相談受付機能を設けた。児童・生徒に貸し出しているタブレットからジャンルを問わず相談することができる。導入時から多数の相談があることがわかり、相談しやすい状況を作れたと感じた。相談

発 言 者	発 言 内 容
教育長	内容について、重大事案に繋がる場合は、早急に対応していただくとともに、市長部局でもサポートしていきたい。 すぐーるを導入したことにより、教員の負担が減り、働き方改革に繋がっている。相談内容については、冷やかしの誹謗中傷、悪口が主であったが、暴力に関することもあり、その場合は、早期に解決していきたい。「誰にも相談したくない」を選択している児童・生徒に対して、学校側はやや傍観していると感じる。例えば、該当する児童・生徒が在籍するクラスにおいて、学級独自のアンケートを行い、人間関係を調査するなどに活用していきたい。相談相手は教員が大半であるため、アンテナを高く、行っていきたい。重大事案について、現在、報告はないが、近い事案は発生している。他自治体では、学校のメンツなどが先行してしまう事案も発生しており、そういうことが無いようにしていきたい。
高山委員	情報発信の時間について、授業中などに随時届いてしまうと気になってしまい、勉強に集中できなくなってしまうのではないかと。また、相談内容について、学校長は、把握をしているのか。これまで以上に相談が寄せられることが想定されるが、相談対応について、教育センター職員の負担は増えているのか。
秘書課長	市からの情報発信時間は、1日3本を目安に、18時以降に発信している。
学校教育課主幹	教育委員会からの情報発信時間は、昼休みまたは放課後に発信している。相談内容については、学校長を通して、教員に提供しているため、把握はできている。
教育センター所長	教育センター職員の負担について、相談窓口導入時から現在まで「相談員のみに相談したい」という相談は2件であり、職員の負担は大きく増えていないと考える。

発 言 者	発 言 内 容
橋本委員	例えば、Aグループに発信する内容を、誤ってBグループに発信した場合、発信取消は可能か。
秘書課主幹	発信取消はできないため、ダブルチェックなどを行い、誤発信がないように注意している。
橋本委員	相談内容について、つぶやきや愚痴、対応要望など、様々な内容があると思う。カテゴリー管理は行っているか。
学校教育課主幹	カテゴリー管理は行っていない。
橋本委員	相談を受け付けてから、24時間以内に対応するなど、ルールはあるか。
学校教育課主幹	特に設けてはいないが、受け付けてから早期に対応している。
橋本委員	紙を使った「いじめに関するアンケート」を行っていたが、今後もすぐーと並行して実施するのか。
学校教育課主幹	学校独自で行っているため、並行して実施するかは、学校判断になる。
山本委員	児童・生徒にとって、地区センターや青少年活動センターでのイベントなど、児童・生徒にとっての身近な情報を優先して発信してほしい。一方で、お知らせが多くなると、児童・生徒に必要な情報が埋もれてしまうため、工夫して発信してほしい。
齋藤委員	すぐーの導入について、児童・生徒だけではなく、保護者にも発信することは可能か。いじめ等の相談は、「すぐー」が導入されたことにより、児童・生徒

発 言 者	発 言 内 容
教育部副参事	にとって相談しやすくなったと思う。いじめへの対応については、被害者へのケアだけではなく、加害者の対応もお願いしたい。 市から保護者への発信は、ラインの登録者へ行っており、教育委員会からの重要情報の発信は、リーバーを活用している。お知らせは、ラインとすぐーるに同時発信をしており、低学年向けには、わかりやすい表現になっているか、未来共創推進室に確認いただいている。
市長	イベント参加の申込について、すぐーるにも添付されているか。
教育長	親の承諾なしで、児童・生徒が申し込まないように、親向けの通知のみに添付している。
市長	いじめについて、親が納得されないケースが見受けられる。どのようなケースで発生しているか、また対応方法について教えてほしい。
教育長	親が納得されないケースの例として、周囲にいた児童生徒に対して、加害者と同じ指導を行ったところ、親が納得されなかった。善悪の行為のみを決めず、どのように対応すれば良いのか、児童生徒に考えさせる場として設けることが、児童生徒の成長に繋がる。
高山委員	誰にも相談したくないと選択した相談内容について、学校は把握しているか。
教育部副参事	アプリ内に、相談者に対して相談内容を学校に伝える旨の記載をしていることもあり、相談窓口に入力された内容については、学校に情報提供している。

発 言 者	発 言 内 容
山本委員	相談内容と誰に相談したか、組み合わせて分析を行うことで、誰にも相談したくないと回答した児童・生徒について詳しいことが分かるかもしれない。
教育長	相談内容について、教員だけで判断できない場合は、教育委員会や教育センターの専門職員に協力いただいている。悩みを解決するためのツールだけではなく、小さな悩みを発見するためのツールとしても活用したい。
高山委員	「なんでも相談窓口」の「なんでも」について、受け付けている範囲はどのくらいか。幅広く相談を受け付けていると、職員負担が過度に増えてしまうのではないか。
学校教育課主幹	基本的には、どのような相談でも受け付けているが、項目を細分化すると、複雑になってしまい、特に低学年は相談がしづらくなってしまう可能性がある。項目や職員対応については、引き続き検討していきたい。
山本委員	相談のハードルを下げる意味では、「なんでも相談」は良い取り組みである。また、将来的に、AIを回答内容の分析に活用できないか検討してほしい。
企画部長	4. 報告事項 (1) 学校給食費無償化の現状について 学校給食費無償化の現状について、教育部より説明を願う。
学校給食課長	学校給食費無償化の現状について説明する。 (資料2を説明)
企画部長	意見交換を行う。委員のご意見を願います。

発 言 者	発 言 内 容
高山委員	自身の教員経験から申し上げますと、他市の給食と比べて、入間市の給食は、美味しく感じる。物価高騰しているなかで、保護者から給食費無償化の要望が出ることは当然である。入間市の美味しい給食が、子育てや教育に大きなメリットがあることをアピールする必要がある。栄養バランスの良い食事をすることで、健康が維持され、体力面や精神面にも効果があると考えます。日常的に、バランスの良い給食を食べることは、質の高い教育につながると考える。
橋本委員	一般の方から、入間市の給食を食べたいと話を聞くことがある。学級閉鎖など、突発的に余った給食を事業者と連携して、販売することはどうか。入間市の給食の美味しさを知ってもらえる機会となり、保護者も納得いただけるのではないかと。保護者も食べてみないと、入間市の給食の重要性が分からない。
学校給食課長	中学校では、登校前に学級閉鎖が決まった場合は、他の学校やクラスに上乗せして、調整を行っている。
教育長	小学校では、突発的事象などにより、正午前に下校させる場合であっても、時間を早めて給食を食べさせている。
山本委員	給食以外の家庭内の食事について、給食以外で栄養バランスの良い食事を食べられていない児童・生徒が一定数いる。そのなかで、栄養バランスの良い給食が食べられることは健康的である。説明にもあったとおり給食費無償化について、国が検討すべき事案であり、引き続き要望を出すべきである。
齋藤委員	国に対して引き続き要望していくべきである。しかしながら、周辺の自治体が給食費を無償化した場合は、検討していく必要がある。入間市の給食の試食など、アピールを行い、魅力を感じて貰うことが重要である。

発 言 者	発 言 内 容
教育長	入間市の給食について、児童・生徒から高い評価を受けている。保護者に理解していただくためにも、入間市の給食の良さを発信することが必要である。
市長	毎年、約5億円を保護者負担としているなかで、給食費無償化を行うと、教育費の削減を検討せざるを得なくなり、教育の質が低下する恐れがある。児童・生徒からの意見を尊重し、入間市の給食は、有意義だと捉えて、市民や保護者に理解していただくことが必要である。大人の都合で、児童・生徒の学校環境を変えたくはない。給食費無償化については、埼玉県西部地区以外では、あまり話題になっていない。周りに振り回されて、本質を見失ってはならない。児童・生徒の視点から考えてほしい。 東京都では、給食費無償化となり、東京都が全額負担する予定だったが、半分を各自治体が負担する結果となり、各自治体は、予算を組み替えて、他事業予算を削ることになった。東京都であっても全額負担することができない状況のなかで、入間市が給食費無償化をすることは難しいと考える。周辺自治体が給食費を無償化すると、入間市も検討することになるが、質の高い給食をあきらめることも視野に入れて検討しなければならない。保護者に、理解していただくために入間市の給食の良さをアピールしていきたい。入間市に対する給食費無償化への要望について、5,000名ほど署名があったが、市外の方や海外からの署名が多かった。保護者からの声として、PTA連合会から要望書を受けたが、「国に要望するようにしてほしい」旨の内容だった。当事者の声が埋まってしまう、本当の声がわからない。就学援助に伴い、13%の児童・生徒の給食費を無償化しているが、就学援助の範囲で充分かという議論は、あるかと思う。家庭状況を精査したうえで研究していきたい。 4. その他
企画部長	連絡事項として、事務局より、次回の総合教育会議の日程について申し上げる。

